

次の文章は、トラウマ（心的外傷）が語られる場を、当事者とそれを取り巻く人たちの「環状島」（中心に内海を持つドーナツ型の島）になぞらえて論じたものである。この文章を読んで後の問いに答えなさい。

一つの事件や一人の人の体験についても、いくつもの異なるイシュー化のあり方があり、同時に複数の異なった環状島を想定することができる。そして、ある環状島においては被害当事者同士だった人が、別の環状島を想定すれば、被害当事者と支援者になったり、被害者と潜在的敵になったり、潜在的敵と被害者が逆転するなど、二人の位置関係が簡単に、かつドラスティックに変わりうるということ。環状島の上ではつねに被害や生きがたさの重さ比べが起きてしまうこと。これらのことを冷静に、また丁寧に考えていくうえで①カかせない概念がある。それが「複合的アイデンティティ」という捉え方である。

複合的アイデンティティとは、ひとりの人間がさまざまな属性や帰属集団、さまざまな役割をもっていて、アイデンティティを一つにくくることができない、という捉え方である。人は皆、いくつもの集団に帰属し、同時にさまざまな役割を②ニナっている。現代社会においては、帰属集団や役割の多層性も増し、場面場面で自分が異なるふるまいをせ

[I] 状況が常態化している。そのため、アイデンティティを単一のものではなく、ときには矛盾し、葛藤し合う役割の③束のような複合的なものとして捉えた方が、現実にも起きていることも理解しやすい。特に民族・階級・ジェンダーなどの要素が複雑に④絡み合うポスト・コロニアルな状況におかれたマイノリティにとって、役割葛藤や矛盾はさし⑤セマったものであることが多く、複合的アイデンティティという捉え方は不可欠なものになってきている。

障害をもつ白人女性と、やはり障害をもつ被差別部落出身の日本人男性というカップルを考えてみると、障害者、被差別部落出身者、白人、日本人、女性、男性というアイデンティティが出てくる。それだけでもアイデンティティが符号的なものであることがわかるが、それ以外にも宗教、居住地などいろいろな要素が加わってくる。けれどもそのうちのどれかによって [A] アイデンティティをもたせられるとしたら、それぞれの人間としてのありようも、二人の関係性のありようも、硬直したものになってしまうだろう。そして個人の中でたびたび大きな引き裂かれを経験することになるだろう。

複合的アイデンティティの優れた論者、鄭暎憲は、「民族」内にある差別の問題をとりあげ、「在日朝鮮人」のコミュニティの中で、女性や子どもへの家父長的な暴力が⑥モクニンされてきたことを指摘する。そして「在日朝鮮人」の女性や「子ども」（二世たち）が解放されるには、日本社会にはびこる民族差別からの解放だけでなく、「暴君（父）によって支配されてきた（家）や（民族）からの解放」も必要だったと述べている（中略）。これは「在日朝鮮人差別」という環状島があまりに強固で、ジェンダーや世代による個別の環状島を浮き [B] ことが最近まで困難であったことを示しているように思う。

また、鄭は、単一的なアイデンティティの捉え方が、「混血」の人たちや帰化した人たち、「祖国」の記憶もなく、その言葉も話せない二世や三世など、「どっちつかず」の人間に必要以上のアイデンティティ・クライシスをもたらしやすいことも指摘する。差別が激しく、それに対する抵抗運動が厳しいほど「在日朝鮮人差別」という環状島は強固になる。それだけに立場がはっきりしない「どっちつかず」の人間は、「本当はどちらの人間なのか」とつねに詮索され、うさんくさい目で見られるだろう。本人も、「自分は何者なのか」「どこにいるべきか」「どちら側にいるべきか」につねに悩まされるだろう。けれども、アイデンティティを複合的なものと捉えれば、いろいろなものが混ざり合った「どっちつかず」の自分をそのまま受け入れやすくなる。鄭はこのことを、「純血でない自分を受け入れる」「自分の中にある不純性、多元性、複合性、混沌性、外部との連続性、つまり [C] を引き受けうる」「不純な「日本人」となる」という言い方で表現している。

一方、ポスト・コロニアルな状況から現れた流れとして、一見マイノリティの権利を尊重するような多文化主義の政治がある。そこではマイノリティがマイノリティとして語ることが保証されるようになる半面、マイノリティがマイノリティとしてしか語れないという皮肉も生まれる。マイノリティが自分の声を挙げようとするとき、それが成功すればするほど、その声は外部に対して「代表性」をもたされてしまい [II]。そして毎回会議のたびにマイノリティの「代表者」として呼び出され、結果として他のマイノリティ・メンバーの声を抑圧してしまったり、「マイノリティの声をちゃんと聴きました」というマジョリティのアリバイにも使われてしまう。こうしてマジョリティからマイノリティの代表として [D] 上げられた人間を「許可証的マイノリティ」という。誰がマイノリティの代表なのかを決める権限は、あくまでもマジョリティの側がもっており、マイノリティを定義するのはマジョリティであるという構造は温存されている。

このような「許可証的マイノリティ」に [D] 上げられる可能性に対抗するために、鄭はスピヴァックを引用しつ

つ、以下のことを主張する。マイノリティに属する人間が、マジョリティとの二項対立で自分のアイデンティティを打ち立てないこと。マイノリティ同士の間の差異についても語り、ステレオタイプ化を許さないこと。そしてマイノリティとしてマジョリティに向かって語らないこと。⑦マイノリティはマイノリティに向かってこそ、おおいに語るべきであり、マイノリティとして括られた者同士の間にもある〈差異〉を浮き彫りにしていくこと。これはまさに、「在日朝鮮人」という環状島だけではなく、マイノリティ同士の間で差異を生むさまざまな事柄についても環状島を想定し、声を挙げてみるということであり、そういった差異を「あってはいけないもの」としてごまかすのではなく、多様性や豊かさのもととして取り扱うということであろう。

(宮地尚子氏の文章による)

注

在日朝鮮人…日本の朝鮮半島植民地支配時代に日本に移住した人々と、その子孫のこと。近年では「在日コリアン」とも呼ばれる。

ポスト・コロニアル…植民地支配が終わった後の世界や状態のこと。

問1 下線部①②⑤⑥の片仮名を漢字に直して回答欄に書きなさい。

問2 下線部③④の漢字の読みを平仮名で回答欄に書きなさい。

問3 [A]に入るものとして、文脈から考えて最も適切な表現を、次のア～エの中から一つ選び、回答欄に記号で答えなさい。

ア だけ イ しか ウ さえ エ など

問4 [B]に入るものとして、文脈から考えて最も適切な表現を、次のア～エの中から一つ選び、回答欄に記号で答えなさい。

ア 上がる イ 上げる ウ 上がらせる エ 上げられる

問5 [C]に入るものとして、文脈から考えて最も適切な表現を、次のア～エの中から一つ選び、回答欄に記号で答えなさい。

ア 無境界性 イ 無自覚性 ウ 無標性 エ 無謬性

問6 [D]に入るものとして、文脈から考えて最も適切な表現を、次のア～エの中から一つ選び、回答欄に記号で答えなさい。

ア 祭り イ 叩き ウ のぼせ エ 選び

問7 [I]に入る言葉を、6文字で回答欄に記しなさい。

問8 [II]に入る言葉を、4文字で回答欄に記しなさい。

問9 波線部「大きな引き裂かれを経験する」の「大きな」を「大きく」に言い換えた場合、自然な日本語となるように「引き裂かれを経験する」を書き換えて11字で回答欄に記しなさい。

問 10 「複合的アイデンティティ」という概念が機能する事例として著者が本文中で触れることについて、もっとも適切な選択肢を、次のア～エの中から一つ選び、回答欄に記号で答えなさい。

ア 「在日朝鮮人」差別からの解放という 이슈 が覆い隠していたマイノリティ内部の問題が、迅速に解決できるようになるという事例

イ 「混血」等によって単一のアイデンティティが持てない「どっちつかず」の自己であっても、ありのままに受け入れることができるようになるという事例

ウ 日本社会において女性や子どもを抑圧、支配してきた家父長的な暴力を、ジェンダー的な視点から解放することができるようになるという事例

エ 障害の有無、人種、宗教、居住地などの属性によって、あるカップルの関係性が硬直的であったとしても符号的なアイデンティティのもとで幸福になれるという事例

問 11 傍線部⑦「マイノリティはマイノリティに向かってこそ、おおいに語るべき」という主張を通じて、著者は具体的に何を言おうとしているか。本文の内容に即して 80 字以上 110 字以内で説明しなさい。その際「マイノリティ」「マジョリティ」という語を必ず用いること。

受験番号	
氏名	カナ
	漢字

この欄以外に受験番号、氏名を記入しないこと。

漢字氏名がない場合は、ひらがなで記入すること。

日本語

総 点

--

———ここから記入すること———

問 1

- ① [かせ] ② [って] ⑤ [った]
- ⑥ []

問 2

- ③ [] ④ []

問 3 []

問 4 []

問 5 []

問 6 []

問 7

せ								状	況
---	--	--	--	--	--	--	--	---	---

(裏へ続く)

